

沖縄での事故原因が解明されないうちで飛行訓練認めな！

市民連合@上越など10団体がおस्पレイなどの訓練で上越市、妙高市に要請

「オस्पレイが関山演習場での訓練に参加しないよう、関係機関に強く求めてください」
 「日米共同訓練そのものも中止するよう防衛省など関係機関に働きかけてください」
 2月1日の午後、日米共同訓練反対県民共闘会議、上越地区平和環境労働組合会議、市民連合@上越、上越市平和委員会、社民党、日本共産党、新社会党の上越地区組織など10団体の代表が上越市長と妙高市長に要請書を提出し、意見交換してきました。要請書を受け取ったのは上越市では土橋均副市長、妙高市では市川達孝副市長で、それぞれ、「いただいた内容は市長に伝えます」（土橋副市長）、「要請のあったことをしっかりと市長に伝えます」（市川副市長）とのべました。

このうち上越市での要請行動では、要請文を手渡した後、日米共同訓練反対県民共闘会議の小山芳元議長（県議）が「オस्पレイは過去に何度も墜落したことのある航空機で、昨年12月には沖縄県名護市において訓練中の同機種が墜落するという重大事故も発生している。関山演習場の近くには、小中学校、保育園、住宅地などがあるが、名護市での事故原因すら特定されていないにもかかわらず、飛行訓練をするな



ど絶対に許されぬ」「関係地域の住民の不安、心配の声はいままで以上に高まっている。また、これまで訓練期間中に油漏れ事故や交通事故を起こし、住民に不安を与えた経過もある。墜落の危険のある欠陥機・オस्पレイの参加の中止、日米共同訓練そのもの中止を防衛省などの関係機関に働きかけてほしい」と訴えました。

参加者からは、「市は住民の利益を守る機関として毅然とした姿勢でのぞんでほしい」（市民連合@上越・馬場共同代表）、「国会でもオस्पレイの墜落の原因が議論されているが、解明されていない。市も安全性が確保されていないと思うなら中止を求めるべきだ」（上越市平和委員会・本間代表）などの訴えが続きました。土橋副市長は、「きょう、いただいた意見もあわせて市長に伝えたい」と答えました。

妙高市では妙高地区平和環境労働組合の岡田一昭議長が要請書を読み上げた後、市川副市長と参加者が意見交換しました。

参加者は、「中郷区の地域協議会では市長に意見書を出したが、不安が大きいということも再度、働きかけをしてほしいとしている。オस्पレイは飛ばないことが一番の安全になる。オस्पレイ、今回は参加しないよう是非要請していただきたい」（牧田上越市議）、「自治体と国との間でこういう問題を話し合う基本は住民の命と安全をどう守るかだ。国の防衛問題であっても住民の命と安全を守るために、注文をつけるときには注文をつけることが大事だ。その点、沖縄県は素晴らしい。ぜひ沖縄に学んでがんばってほしい」（私）などと訴えました。市川副市長は、「訓練の20日くらい前には詳しい説明があるものと思っている。その内容を見て、上越市と一緒に対



【コウライカ】マダガスカル原産の多年草、ベンケイソウ科です。花はだいたい色。1月～2月に開花します。漢字で「幸来花」と書くことから「幸せが来る花」として人気があります。写真は三八市にて撮りました。

応じていきたい」などと答えました。
 この日、参加した団体では、3月4日（土）の午後からオस्पレイ参加反対などを訴える集会とデモを計画しています。場所や時間が決まり次第、お知らせします。

「頸北斎場は残して」などの訴え 相次ぐ…共産党議員団主催報告会

1月26日、柿崎地区公民館で日本共産党議員団主催の市政報告会を開催しました。



会では平良木議員がスライドを使って、斎場、国宝の太刀購入、不良ごみ袋、ガス水道局所管工事における談合問題などについて報告し、その後、参加者と意見交換しました。会では、頸北斎場は残してほしいという強い声が出されました。地域協議会のメンバーの発言を聴いていて、よく調べているなと思いましたが、私たちも現地調査、他市の事例調査などをしなければなりません。県立久比岐高校の存続や柿崎駅の「緑の窓口」などについての発言は参考になりました。私たちも研究します。糸魚川の大火の影響もあり、市の消防力や女性団員などについても質問がありました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1793 2017.2.5
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら


春よ来い

第四一回

日帰り旅行

一月の下旬、柏崎市の親戚の人たちなどから日帰り旅行をするので参加しないかと誘われ、私も出かけてきました。

行き先は柏崎から車で一時間ほどの「えちご川口温泉」です。参加者は総勢七人でしたが、ワゴン車で送迎してもらいました。途中、義兄が用意してくれたビールもいただきました、車の中は賑やかでした。

「えちご川口温泉」は初めてでした。温泉施設はけっこう高台にあつて、積雪は一歩を軽く超えていました。施設には休憩のための部屋が大小いくつもあり、豪華ホテルという雰囲気がありました。

係の人に案内してもらい二階に上がつて外を見たとき、「わーっ、すごい」と思いました。見えたのは信濃川と魚野川が合流する地点です。二つの川、橋、雪をかぶつた山々などの風景はまさに絶景でした。

私たちが案内された休憩室は一〇人ほどが入れる和室で、ゆつたりと休めるようになっていました。

日帰り旅行の楽しみはお風呂と宴会です。宴会までには四〇分ほどの時間がありました。まずは支度をして大浴場に行くことにしました。長い廊下を歩いて浴場に行くとき、入浴者はほんの数人。丁度空いている時間帯だったんですね。湯はキハダで色をつけたといった感じで、黄色に染まっています。顔を洗うと、しょっぱい味がします。温泉は少しぬるめでしたので、ゆつくりとつかりました。

浴場からは外が見えます。まず目に入ったのはつららです。大きなのは一筋、短いのも五〇程はありました。今冬は暖冬ですが、これほど大きいつららに出合ったのは久しぶりでした。窓の外には杉の木が数本あり、じっと見ていたら、青空を横切るカラスの姿も目に入りました。温泉の中でゆつたりしていると、面倒なことはすべて忘れ、じよんのびできます。

休憩室に戻って間もなく、楽しい宴が始まりました。もちろんアルコール付きです。エビのてんぷら、シイタケやニンジンなどの煮物、ブリの照り焼きなどがそれぞれに配られ、大いに飲み、食べました。

柏崎の家では先日、義父の七回忌法要を済ませたばかりでした。義父と隣の家のお父さん、Kさんの月命日が二〇日と二一日だということから、まず、Kさんの生前の頑張り様が話題になりました。田んぼや畑の仕事はいつも土日にやっていて、「午前」に仕事を始めるとお昼までずっと仕事を続けていた。午後と同じだった」などという話にみんなうなずいていました。

この温泉の大浴場は建物の奥の方にあります。長い廊下を歩いていかなければなりません。以前、ほぼ同じメンバーで出かけた赤倉温泉のホテルでも同じでした。そこには階段があったという話から、私の母が「両手を使って、階段をパツ、パツと」ぼっていた」とか、「山菜採りに行くときも孫を背中におったまま傾斜地を上り下りしていた」などといった話も出ました。

日頃、みんなが一緒になることはあまりないので、このときとばかりに話が出てくるのでしようね。おしゃべりは二時間ほど続きました。

この日は大浴場に二回入りました。再び休憩室に戻ったときに、宴会に出された食べ物のお品書きが目に残りました。その一角に初めて出合った言葉が書いてありました。「妻一式」。いろいろと勝手に想像したので、調べたところ、「刺身の妻がいろいろ」という意味であることを知って笑ってしまいました。

今回の小旅行には九二歳の義母も参加しました。夕方、柏崎に着いてすぐ帰ろうとしたら、「まだいろいろ」と言いました。義母にとってはまだ話足りなかったのかも知れません。



吉川診療所の山本医師が3月末で退職

先日行われた吉川区地域協議会で市側からたいへん残念な報告がありました。それは吉川診療所（写真左）の山本正洋医師が持病の関係で3月末をもって退職されることになったという内容です。

山本医師は整形外科の専門家で、これまで20年間にわたり、吉

川診療所で診療活動をしていただきました。地元吉川区高沢入出身でしたので、ずっといていただけのものと思っていたのですが、とても残念です。

市の担当者の説明によると、4月からは市内の医療機関に勤務したことがある医師から週3日来ていただける見込みで、残り2日間については市内の他の医療機関から協力していただくために努力中とのことでした。

柿崎病院に訪問看護ステーション設置を！

県立柿崎病院後援会理事会が1月31日の午後、同病院内で開催されました。

この時期の理事会は藤森病院長が講演をし、その後意見交換をするのが恒例となっています。この日、藤森病院長は医療をめぐる状況を全国的レベルから頸北地域レベルまで、それぞれの特徴を明らかにし、訪問診療、訪問介護を充実させる、訪問看護ステーションをつくるなど、地域医療を守っていく今後の方向を示されました。

先日、米山知事がビッグデータの活用について話されましたが、柿崎病院でのデータのデジタル化だけで1億円弱かかったなどという病院長の話は新鮮でした。地域に開かれた病院運営の努力はこれからも続きます。写真は藤森病院長。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	1月25日(水)	2月1日(水)
上越南消防署	0.043	0.047
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.060	0.043
東頸消防署	0.050	0.053
高士分遣所	0.050	0.040
名立分遣所	0.053	0.053